

法人名:財団法人 青森県育英奨学会

法人の概要

平成15年6月1日 現在

| | | | | | | |
|-------|---------------|-------------------|----------------------------------|-----------|-------|----------|
| 法人の名称 | 財団法人 青森県育英奨学会 | | 代表者職氏名 | 理事長 永井 敏彦 | 所 管 課 | 教育庁県立学校課 |
| 設立年月日 | 昭和54年11月1日 | 事務所の所在地 (電話番号) | 青森市新町二丁目3番1号 017 - 734 - 9879 | | | |

組織構成

| | | | | | |
|---------|--------|---------|---------|----------|---------|
| 理事・役員数 | 常勤 名 | (県派遣) 名 | (県OB) 名 | 非常勤 12 名 | 合計 12 名 |
| 監事・監査役数 | 常勤 名 | (県派遣) 名 | (県OB) 名 | 非常勤 2 名 | 合計 2 名 |
| 職 員 数 | 常勤 3 名 | (県派遣) 名 | (県OB) 名 | 非常勤 4 名 | 合計 7 名 |

臨時職員は非常勤に含む。

基本財産・資本金等

| | うち県の出資等額 | 県の出資等比率 |
|----------|----------|-----------------|
| 基本財産・資本金 | 2,500 千円 | 1,000 千円 40.0 % |
| 基 金 | 千円 | 千円 % |
| 合 計 | 2,500 千円 | 1,000 千円 40.0 % |

主な出資者等の構成(出資等比率順位順)

| 氏名・名称 | 金額(千円) | 出資等比率(%) |
|----------------|--------|----------|
| 1 財団法人青森県育英奨学会 | 1,500 | 60.0 |
| 2 青森県 | 1,000 | 40.0 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

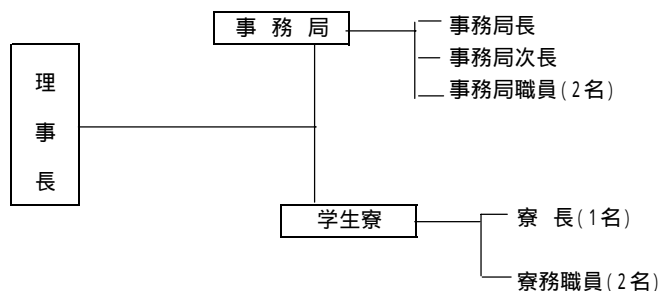
会 員 数(社団法人対象)

| 区 分 | 正会員 | 賛助会員 | その他の会員 | 合計 |
|-----|-----|------|--------|----|
| 法 人 | | | | 0 |
| 個 人 | | | | 0 |

寄付金に関する減免措置

| | | |
|-----------|--------------------|---|
| 特定公益法人の有無 | 有 (年 月 より) | 無 |
| 指定寄付金の有無 | 有 (年 月 日 ~ 年 月 日) | 無 |

組 織 図 (簡略に記入するか別紙で添付してください。)



設 立 目 的

この法人は、青森県の子弟のうち、学業、人物がすぐれているにもかかわらず経済的理由により修学困難な者に対し学資を貸与し、及び学生寮を利用させる等必要な援助を行い、本県並びに国家社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与することを目的とする。

設 立 の 背 景

昭和31年に国から東京都小平市にある旧陸軍経理学校の建物と土地の払い下げを受け、青森県直営の学生寮が設置された。その後、同施設の老朽化に伴う建て替えにあたり、昭和54年に「財団法人青森県学生寮」が設立され、同財団が銀行から建設費を借り入れし、昭和56年に現在の学生寮が全面改築された。

昭和58年には、奨学金貸与事業の実施を機に寄附行為を改正し、法人名を「財団法人青森県育英奨学会」に変更した。

事 業 内 容

- 1 学資の貸与
- 2 学生寮の維持管理
- 3 学生寮入寮生の生活指導
- 4 その他目的を達成するために必要な事業

マネジメント

1 経営理念、中長期経営計画

(1)経営者の経営理念・基本目標等

青森県の子弟のうち、学業、人物が優れているにもかかわらず経済的理由により修学困難な者に対し学資の貸与し、及び学生寮を利用させる等の必要な援助を行い、本県並びに国家社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与するという法人設立の目的に則り、優れた人材を育成することを基本目標とし、本会の健全な運営に努めるとともに奨学金貸与事業の充実と学生寮の施設・設備等の環境整備を図る。

(2)平成14年度における経営者の経営目標の達成度の自己評価

1 青森県学生寮の管理・運営事業

学生寮については、寮生が安心して勉学に専念できるよう、施設の整備に努め、14年度から3カ年計画で学生寮の屋上等の大規模改修工事を行った。

また、入寮生の確保についても、年度当初は、定員の100人でスタートし、年間平均94人で推移した。

2 奨学金貸与事業

進学を希望する生徒の修学機会の確保と奨学金貸与事業の充実を目標とし、奨学生130人を採用した。

(3)平成15年度における経営者の経営目標

学生寮については、寮生の要望に応え設備等の環境整備に努めるとともに、新規入寮生の確保を図る。

奨学金については、引き続き大学進学を希望する生徒の修学機会の確保に努める。

(4)中長期経営計画の状況

| | | |
|---------|------------------|------------|
| 計画の策定状況 | (14年度 ~ 20 年度) | ○昨年度までに策定済 |
| | | 今年度策定 |

2 事業内容等

(1)平成15年度予定している主な事業

| 事業名 | 事業区分 | 公益・収益 区分 | 直営・委託 区分 | 金額(千円) | 全体事業 費に占める 割合(%) | 事業内容 |
|------------|--------------|--------------|----------------|------------|------------------------|--|
| 学生寮管理・運営事業 | 補助事業 自主事業 | 公益事業 公益事業 | 委託 委託 直営 | 50,051 | 11.1% | 青森県の子弟で、東京都又はその近郊に所在する 大学等に在学する男子学生を收容する。 1 所在地 東京都小平市 2 收容定員 100名 3 所要経費 入寮費 30,000円 寮費 28,000円 食費 約10,000円 電気代 実費 |
| 屋上等改修工事 | | | | 8,000 | 1.8% | |
| 建物の法定点検委託等 | | | | 8,101 | 1.8% | |
| 上記以外の業務 | | | | 33,950 | 7.5% | |
| 奨学金貸与事業 | 補助事業 | 公益事業 | 直営 | 401,204 | 88.9% | 青森県の子弟のうち、学業、人物が優れているにも かかわらず経済的理由により修学が困難な者に対 し、学資を貸与する。 1 新規採用人員 130名 2 貸与月額 44,000円 3 貸与期間 在学する大学の最短修業年限 4 返 還 貸与終了後1年据置き8年間で 返還 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 公益事業支出 | 451,255 千円 | | 直営事業支出 | 435,154 千円 | | |
| 収益事業支出 | | | 委託事業支出 | 16,101 千円 | | |
| 当期支出(+) | 451,255 千円 | | 当期支出(+) | 451,255 千円 | | |
| / | 100.0 % | | / | 96.4 % | | |

(2)平成15年度予定している主な事業に係る目標(指標)内容

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|--------|--------|--------|--|
| 学生寮事業 | | | | 学生寮の利用者を月平均85人 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 87 | 85 | 94 | これまでの実績等を踏まえ、学生寮の入寮生を一人でも多く確保し、収入の増額を図る。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|---------|---------|---------|--|
| 奨学金貸与事業 | | | | 貸与月額を44,000円 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 41,000円 | 42,000円 | 42,000円 | 厳しい経済状況の中、奨学生が安心して勉学に励むことができるよう、奨学金の貸与月額を増額する。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|--------|--------|--------|-------|
| | | | | |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | | | | |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|--------|--------|--------|-------|
| | | | | |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | | | | |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|--------|--------|--------|-------|
| | | | | |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | | | | |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|--------|--------|--------|-------|
| | | | | |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | | | | |

(3) 主な受託事業の再委託状況

(単位:千円)

| 受託事業名 (再委託先) | 再委託の内容・理由 | 13年度再委託金額 | | 14年度再委託金額 | |
|-----------------|-----------|-----------|---|-----------|---|
| | | 13年度受託事業費 | | 14年度受託事業費 | |
| | | | / | | / |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 合 計 | | 0 | | 0 | |
| | | 0 | | 0 | |

(4) 直営事業の比率

(単位:千円)

| 項 目 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|------------|---------|---------|---------|
| 直営事業支出額 | 354,498 | 384,341 | 416,578 |
| 委託事業支出額 | 2,700 | 2,756 | 14,654 |
| 当期支出額(+) | 357,198 | 387,097 | 431,232 |
| / | 99.2% | 99.3% | 96.6% |

直営事業とは、公社等が自ら実施している事業です。

(5) 公益事業と収益事業の比率

(単位:千円)

| 項 目 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|------------|---------|---------|---------|
| 公益事業支出額 | 357,198 | 387,097 | 431,232 |
| 収益事業支出額 | | | |
| 当期支出額(+) | 357,198 | 387,097 | 431,232 |
| / | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

(6) 実施事業の広報活動等

| 広報した事業等 | 実施時期 | 実施媒体 | 広報内容(概要) |
|-------------|-----------|-------------|----------------|
| 青森県学生寮入寮生募集 | 12月～2月、7月 | テレビ、ラジオ、新聞等 | 青森県学生寮入寮生募集の周知 |
| 青森県育英奨学生募集 | 12月～3月 | テレビ、ラジオ、新聞等 | 青森県育英奨学生募集の周知 |
| | | | |
| | | | |

(7) 類似事業を行う業種又は事業者名

| 業種又は事業者名 | 類似している事業内容 |
|----------|--|
| 日本育英会 | 学生及び生徒で経済的理由により修学に困難があるものに対し、学資の貸与を行う。 |
| | |
| | |

その事業者が、県が出資等を行っている法人であるか否かに関わらず、記入してください。

3 組織体制等

(1) 役職員数(15.6.1現在)

(単位:人)

| 項目 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | |
|--------|---------|------|------|----|
| 常勤役員 | 県派遣職員 | | | |
| | 県職員OB | | | |
| | 民間からの役員 | | | |
| | プロパ-職員 | | | |
| | 小計 | 0 | 0 | 0 |
| 常勤職員 | 県派遣職員 | | | |
| | 県職員OB | | | |
| | プロパ-職員 | 3 | 3 | 3 |
| | 小計 | 3 | 3 | 3 |
| 非常勤役員 | 県・市町村関係 | 3 | 3 | 3 |
| | 民間からの役員 | 9 | 9 | 9 |
| | 小計 | 12 | 12 | 12 |
| 非常勤職員 | 県職員OB | | | |
| | その他の職員 | 1 | 1 | 1 |
| | 小計 | 1 | 1 | 1 |
| 臨時職員 | 3 | 3 | 3 | |
| 計(~) | 19 | 19 | 19 | |

(2) 職員の年代別構成(15.6.1現在)

(単位:人)

| | 50代以上 | 40代 | 30代 | 20代 | 10代 | 合計 |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|----|
| プロパ-職員 | | 1 | | 2 | | 3 |
| 県派遣職員 | | | | | | 0 |
| 県職員OB | | | | | | 0 |
| 非常勤職員 | 1 | | | | | 1 |
| 臨時職員 | 2 | | 1 | | | 3 |
| 計 | 3 | 1 | 1 | 2 | 0 | 7 |

(3) 職員の勤続年数別構成(15.6.1現在)

(単位:人)

| | 30年以上 | 20年以上 | 10年以上 | 5年以上 | 5年未満 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|------|------|----|
| プロパ-職員 | | 1 | | | 2 | 3 |
| 県派遣職員 | | | | | | 0 |
| 県職員OB | | | | | | 0 |
| 非常勤職員 | | | | | 1 | 1 |
| 臨時職員 | | | 2 | | 1 | 3 |
| 計 | 0 | 1 | 2 | 0 | 4 | 7 |

(4) 役職員の見直し内容

| 13年度 | 14年度 | 15年度 |
|------|------|------|
| | | |

(5) 常勤職員の給与体系

| (いずれかに をして下さい。) | 給与体系の見直し予定 |
|---------------------------------------|---------------|
| 1 法人独自の給与体系 | 1 有 (年 月 予定) |
| 2 県の給与体系を準用 | 2 無 |
| 3 その他 () | 3 その他 () |
| 給与体系の見直し予定がある場合、どの様に見直しする予定か記入してください。 | |
| | |

(6) 経営情報等の情報公開の状況(複数回答可 いずれかに をして下さい。)

| 青森県情報公開条例第33条の規定により実施機関が定める法人 | | 定められている | 定められていない |
|---|--|--|----------|
| 公開状況 | 公開内容 | 公開方法 | |
| 1 自ら積極的に公開している 2 情報開示請求等があれば公開している 3 その他() | 1 貸借対照表 2 損益計算書、収支計算書等(概要のみ可) 3 事業内容、計画等 4 その他() | 1 事務所等に備え付け 2 広報誌、新聞等、インターネット、公告 3 議会において説明等 4 その他() | |

青森県情報公開条例第33条の規定により実施機関が定める法人に定められた法人は条例の主旨にのっとり、その保有する情報の開示及び提供を行うため必要な措置を講ずるよう努める責務があります。また、公益法人は「公益法人の設立許可及び指導監督基準(平成8年9月20日閣議決定)」に基づき業務及び財務に関する資料を主たる事務所に備えて置き、原則として、一般閲覧に供することとなっています。

(7) 内部統制(業務チェック体制等)の状況 (内部統制の確立とその有効な運用を確保するために、どのような施策をとっていますか。)

起案文書及び伝票等を複数の職員が確認している。また、毎月預金・現金と帳簿及び合計残高試算表とを照合している。

内部統制とは、法人内のチェック・システムで間違い(誤謬・不正)を未然に発見できる仕組みをいう。

(8) 職員研修の実施状況

| 研修の名称 | 実施機関名 | 受講人数 | 最終実施年度 |
|---------------|----------|------|--------|
| 栄養士管理講習 | 小平保健所 | 2 | 15年度 |
| 全国学生寮寮長・寮母研修会 | 全国学生寮協議会 | 1 | 15年度 |
| 公益法人会計基準実務研修 | 全国公益法人協会 | 1 | 14年度 |
| | | | |
| | | | |

(9) 人事交流の実施状況

| 人事交流等の実績 | 実施年度 |
|----------|------|
| へ 名派遣 | |
| へ 名派遣 | |
| へ 名派遣 | |
| から 名受入 | |
| から 名受入 | |
| から 名受入 | |

4 マネジメント評価

(1) 経営理念・基本目標、中長期経営計画、提言への対応

| 評価項目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 経営者の経営理念・基本目標は、貴団体の設立目的に立脚して策定していますか。 | | | | |
| 経営者の経営理念・基本目標は経営者が自らリーダーシップを発揮し、単に訓示する等にとどまらず日常の経営活動の中で役員・職員に周知徹底するようにしていますか。 | | | | |
| 貴団体の実施事業に関連のある社会経済動向や経営環境について調査、分析し、その結果を資料としてまとめ、それを貴団体の経営活動に活かしていますか。 | | | | |
| 貴団体と同種の事業を行う他団体の経営情報について調査、分析し、その結果を資料としてまとめ、それを貴団体の経営活動に活かしていますか。 | | | | |
| 顧客(サービス等を提供する対象)、市場及び県民ニーズについて事業毎に調査、分析し、その結果を資料としてまとめ、それを貴団体の経営活動に活かしていますか。 | | | | |
| 経営者の経営理念・基本目標に基づき、中長期経営計画を策定していますか。 | | | | |
| 中長期経営計画と県の政策との整合性について県の所管部局と十分に協議していますか。 | | | | |
| 中長期経営計画に経営数値目標が含まれていますか。 | | | | |
| 中長期経営計画に基づき、年度ごとに経営数値目標を作成していますか。 | | | | |
| 年度ごとの経営目標には、事業ごとに経営数値目標が含まれていますか。 | | | | |
| 外部経営環境の変化に応じて中長期経営計画を見直し、修正するシステムがありますか。 | | | | |
| 中長期経営計画の見直しを踏まえて、年度ごとの経営数値目標と実績を比較、分析して、その結果に応じて次年度の経営数値目標や計画を見直すシステムがありますか。 | | | | |
| 民間や他の団体が担える業務が、貴団体の業務に含まれていませんか。 | | | | |
| 公社等経営委員会からの提言について対応策を策定し、実施していますか。 | | | | |
| 公社等経営評価委員会からの提言等について対応策を策定し、実施していますか。 | | | | |
| 合計数 | 14 | 1 | 14 | 1 |
| | はいの割合 | 93.3% | はいの割合 | 93.3% |
| | 評価 | A | 評価 | A |

| 経営理念・基本目標・中長期経営計画に関する公社等の考え方 | 経営理念・基本目標・中長期経営計画に関する所管課のコメント |
|--|---|
| <p>経営理念・基本目標・中・長期計画に変更は無く、財団の寄附行為にある設立目的に則り、優れた人材の育成を目標とし、経済的理由により、父母が生徒の大学進学を断念し、優れた能力を持ち将来が期待される生徒の勉学の機会が失う事がないよう、父母の経済的負担を軽減し、安心して生徒が勉学できる環境の整備・充実に努めることとしている。</p> <p>また、社会経済状況等を考慮し、財団の経営活動を行っている。</p> | <p>人材育成の観点から、(財)青森県育英奨学会の果たす役割は大きく、今後とも引き続き事業の充実に努めていただきたい。</p> |

(2)事業内容等

| 評価項目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|---|-------|--------|-------|--------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 貴団体の事業内容は設立目的と合致していますか。 | | | | |
| 貴団体の事業内容は、関連のある県の事業計画と整合性がとれていますか。 | | | | |
| 貴団体の事業内容は、外部経営環境を考慮していますか。 | | | | |
| 事業の目標は、数値で設定されていますか。 | | | | |
| 事業の目標値と実績値を比較し、差異の原因分析を行い、その結果を経営者層に報告するシステムが構築されていますか。 | | | | |
| 事業の目標値が達成されなかった場合、対応策を策定し、それを実施していますか。 | | | | |
| 顧客のニーズの把握・調査を行い、その結果を受けて経営改善策を実施していますか。 | | | | |
| いわゆる「顧客満足度調査」を行い、その結果を受けて経営改善策を実施していますか。 | | | | |
| 受託事業を再委託する際、主要部分は直営で実施するなどその内容は適切ですか。 | - | - | - | - |
| 実施事業の広報活動について、積極的に取り組み、その効果について検証を行っていますか。 | | | | |
| 顧客から貴団体が行う広報活動についての提案があった場合、それを広報活動の改善に反映させるように取り組んでいますか。 | | | | |
| 合 計 数 | 10 | 0 | 10 | 0 |
| | はいの割合 | 100.0% | はいの割合 | 100.0% |
| | 評 価 | A | 評 価 | A |

| 事業内容等に関する公社等の考え方 | 事業内容等に関する所管課のコメント |
|--|--|
| <p>事業内容は、寄附行為にあるとおり青森県の子弟に対し必要な援助を行うものであり、長引く不況による経済状況の悪化のもと、大学進学を希望する生徒を持つ父母の負担軽減を図り、県民の要望に応えているものと思っている。</p> <p>また、事業内容を県のホームページに掲載するなど、県民に広く周知を図っている。</p> | <p>県教育委員会では、今年度から進学志望達成支援事業を実施し、大学進学率の向上を図ることとしており、大学進学を希望する生徒を持つ父母を経済的側面から支援する財団の事業は、必要不可欠である。</p> <p>また、事業実施にあたっては、広く周知を図るなどPRに努め県民のニーズに応えるよう努力している。</p> |

(3)組織体制等

| 評価項目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|--|-------|-------|-------|-------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 役員の選任に際しては、経営責任を果たせる人材を登用し、かつ、常勤役員を最小限にしていますか。 | | | | |
| 経営上の重要な意思決定(一定金額以上の借入金、投資、職員の給与等)は、理事会等の決議によりなされていますか。 | | | | |
| 貴団体の経営活動について、理事会が実効性・責任性を持って年4回以上実施されていますか。 | | | | |
| 監事監査が実効性をもって実施され、その指摘事項に対し改善策を実施していますか。 | | | | |
| 内部統制のあり方を定期的に見直ししていますか。 | | | | |
| 決裁に関する規程は、適正であり、遵守されていますか。 | | | | |
| 組織が硬直化しないように、組織(課・係)の再編成やフラット化、事務分掌の変更等)の見直しを行っていますか。 | - | - | - | - |
| 業務量に照応して職員数は適正ですか。 | | | | |
| 職能の向上と職場の活性化のため、適材適所に配慮しつつ、同一職務への長期間の職員配置の見直しを行っていますか。 | - | - | - | - |
| プロパー職員の役員・管理職登用を行っていますか。 | | | | |
| 役員報酬は役員の職能遂行度と経営状況に鑑みて適切なものとなっていますか。 | - | - | - | - |
| 職員給与は職員の業績と経営状況に鑑みて適切なものとなっていますか。 | | | | |
| 適正な人事評価制度を導入していますか。 | | | | |
| 管理職を対象とした研修を行っていますか。 | | | | |
| 一般職員の能力を引き出すような研修を行っていますか。 | | | | |
| 職員の経営への参画意識や積極的な問題提起意識を具体的に上げる仕組みがありますか。 | | | | |
| 他団体との人事交流(研修派遣等を含む)を行っていますか。 | | | | |
| 経営情報等の情報公開を、県民に対し、貴団体独自に行っていますか。 | | | | |
| 合計数 | 12 | 3 | 12 | 3 |
| | はいの割合 | 80.0% | はいの割合 | 80.0% |
| | 評価 | A | 評価 | A |

| 組織体制等に関する公社等の考え方 | 組織体制等に関する所管課のコメント |
|---|--|
| <p>理事長及び役員の報酬については、無報酬である。</p> <p>また、事務局職員の給料についても、給料表は県に準じているものの特別昇給はなく、年1回の昇級のみであり、決して他と比較して高くないものである。</p> <p>また、運営に係る必要な規則等は定められ、遵守している。</p> | <p>職員の給料は低く抑えられており、人件費は最小限の所要額となっている。</p> <p>また、運営に必要な規則は、県に準じた形で定められ、職員も遵守している。</p> |

(4) 事業遂行の効率性等

| 評価項目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|--|-------|--------|-------|--------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 事務処理の問題点の把握や原因分析を行っていますか。 | | | | |
| 把握された事務処理の問題点に対する改善を行っていますか。 | | | | |
| 管理費削減のために支出項目の分析を行っていますか。 | | | | |
| 管理費削減のために具体的な改善を行っていますか。 | | | | |
| 業務委託や一定金額以上の物品購入コストの低減のために、入札方式や契約方法を工夫していますか。 | | | | |
| 効率的・効果的な業務遂行のために外部委託を行っていますか。 | | | | |
| 外部委託業者の選定基準・プロセスが公開され、明確ですか。 | | | | |
| 取引相手先が5年以上固定化していませんか。 | | | | |
| 金融機関等に対する金利交渉等を行っていますか。 | | | | |
| 資金運用、投資先を定期的に見直していますか。 | | | | |
| 保有資産の含み損はありませんか。 | | | | |
| 回収困難な債権が増加していませんか。 | | | | |
| マーケティング活動を積極的に行っていますか。 | | | | |
| 合 計 数 | 13 | 0 | 13 | 0 |
| | はいの割合 | 100.0% | はいの割合 | 100.0% |
| | 評 価 | A | 評 価 | A |

| 事業遂行の効率性等に関する公社等の考え方 | 事業遂行の効率性等に関する所管課のコメント |
|--|--|
| <p>事務処理にあたって、正確かつ速やかな処理に心がけ、効率的に処理されている。また、処理にあたって問題点等が指摘された場合は、改善に努めている。</p> <p>管理費等の支出にあたっては、努めて削減を図るなど、節減に努めている。</p> <p>資金運用については、金融機関を固定することなく、あくまでも高金利で安全性の高いものを選び運用しており、資産の増に努めている。</p> <p>未収金の回収については、債務者に対し電話連絡や督促状を送付するなど、その回収に努めている。</p> | <p>事務処理にあたっては、効率的に処理され、また事務費の削減を図るなどの努力が認められる。</p> <p>また、資金運用にあたっては、金利の高いもの(元利保証)を扱うなど、効果的に運用されており問題はない。</p> |

財務

1 財務の状況

二つ以上の会計部門を持っている法人は総括表により記載する。

(1) 収支計算の概要

(単位:千円未満四捨五入)

| 収入の部 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|-------------|------------|---------|---------|---------|
| ア | 基本財産運用収入 | 3 | 4 | 1 |
| イ | 入会金収入 | | | |
| ウ | 会費収入 | | | |
| エ | 事業収入 | 125,585 | 149,083 | 171,007 |
| オ | 補助金等収入 | | | 8,800 |
| カ | 負担金収入 | | | |
| キ | 受託収入 | | | |
| ク | 寄付金収入 | | 100 | 200 |
| ケ | 運用財産受取利息 | 7,491 | 4,068 | 1,317 |
| コ | 雑収入 | 580 | 739 | 587 |
| サ | 基本財産収入 | | | |
| シ | 固定資産売却収入 | | | |
| ス | 敷金・保証金戻り収入 | | | |
| セ | 借入金収入 | | | |
| ソ | 特定預金取崩収入 | 222,294 | 238,635 | 257,953 |
| タ | 他会計受入収入 | | | |
| チ | 当期収入合計 | 355,953 | 392,629 | 439,865 |
| ツ | 前期繰越収支差額 | 12,795 | 8,233 | 9,467 |
| テ | 収入合計 | 368,748 | 400,862 | 449,332 |
| 支出の部 | | | | |
| ト | 事業費 | 247,298 | 264,862 | 294,492 |
| ナ | 管理費 | 246 | 192 | 182 |
| | ニ (うち人件費) | 0 | 0 | 0 |
| ヌ | 固定資産取得支出 | | | |
| ネ | 敷金・保証金支出 | | | |
| ノ | 借入金返済支出 | | | |
| ハ | 特定預金支出 | 109,654 | 122,043 | 136,558 |
| ヒ | 他会計繰入支出 | | | |
| フ | 当期支出合計 | 357,198 | 387,097 | 431,232 |
| ヘ | 当期収支差額 チ-フ | 1,245 | 5,532 | 8,633 |
| ホ | 次期繰越収支差額 | 11,550 | 13,765 | 18,100 |

注1 正味財産増減計算書より

| 増加の部 | | | | |
|------|------------|---------|---------|---------|
| マ | 退職給与引当金取崩額 | | 1,351 | 38 |
| ミ | その他の引当金取崩額 | 222,294 | 237,284 | 257,915 |
| 減少の部 | | | | |
| ム | 固定資産除売却額 | | | |
| メ | 固定資産減価償却額 | 4,815 | 4,334 | 4,394 |
| モ | 退職給与引当金繰入額 | 515 | 1,143 | 392 |
| ラ | その他の引当金繰入額 | 109,139 | 120,900 | 136,166 |

注1 減価償却方法

(例:定額法による税法基準の償却率)

定額法による税法基準の償却率

| 償却過不足額 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|------------------------------|------|------|------|
| 償却不足額の当該年度分は メ に加味する。 | | | |

注2 退職給与引当金の引当方法

退職給与引当金の算出方法、決算書上の負債としての計上の状況、特定資金の留保の状況について記載してください。

支給対象職員の自己都合退職の場合の期末要支給額を計算し、期末帳簿残高との差額を引当金に入れる。

(引当していない場合や引当不足がある場合は、支給対象社員の自己都合退職の期末要支給額を計算し、期末帳簿残高との差額を **モ** に入れる。)

注3 その他の引当金の種類と引当方法

| 引当金の名称 | 引当方法 |
|------------|----------------------------------|
| 定期預金(特別会計) | 奨学金返還金を次年度以降の貸付金にするために定期預金にしている。 |
| 引当金の名称 | 引当方法 |
| | |
| 引当金の名称 | 引当方法 |
| | |

引当不足がある場合は、あるべき期末残高と期末帳簿残高との差額を **ラ** に加味する。

(2) 財政状態の概要

(単位:千円未満四捨五入)

| 項 目 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|-----|----------------|-----------|-----------|-----------|
| a | 流動資産 | 855,137 | 741,233 | 650,518 |
| b | 固定資産 | 1,288,793 | 1,395,418 | 1,506,534 |
| c | (うち基本財産 / 基本金) | 2,500 | 2,500 | 2,500 |
| d | (うちその他の固定資産) | 1,286,293 | 1,392,918 | 1,504,034 |
| e | 資産合計 | 2,143,931 | 2,136,651 | 2,157,052 |
| f | 流動負債 | 3,745 | 3,990 | 30,335 |
| g | (うち借入金) | 0 | 0 | 0 |
| h | 固定負債 | 6,495 | 6,287 | 6,641 |
| l | (うち借入金) | 0 | 0 | 0 |
| j | 負債合計 | 10,240 | 10,277 | 36,976 |
| k | 正味財産 | 2,133,690 | 2,126,374 | 2,120,076 |
| l | (うち当期増減額) | 203,564 | 202,146 | 231,481 |

(3) 内部留保金額 年度末現在

(単位:千円未満四捨五入)

| 項 目 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 総資産額 | 2,143,931 | 2,136,651 | 2,157,052 |
| (1) 財団法人における基本財産 | 2,500 | 2,500 | 2,500 |
| (2) 公益事業を実施するために有している基金 | 833,347 | 717,191 | 595,441 |
| (3) 法人の運営に不可欠な固定資産 | 1,286,293 | 1,392,918 | 1,504,034 |
| (4) 将来の特定の支払に充てる引当資産等 | 6,495 | 6,287 | 6,641 |
| (5) 負債相当額 | 6,326 | 9,573 | 30,335 |
| m 内部留保金額 | 8,970 | 8,182 | 18,101 |

「内部留保」とは、総資産額から、次の事項等を控除したもとする。

財団法人における基本財産

公益事業を実施するために有している基金(事業目的が限定的であり、容易に取り崩しができないものに限る。)

法人の運営に不可欠な固定資産:法人事務所、事業所、土地、設備機器等(固定資産については、真に必要な水準に限られるべきものであり、法人の事業内容、規模等から考えて不必要に広い法人事務所等は、これに該当しない。)

将来の特定の支払に充てる引当預金等:退職給与引当金、減価償却引当預金等(引当預金についても、法人の運営上将来必要な特定の支払に充てることが明瞭であり、かつその支払等が可能な限り明確に予定されているものに限られるべきである。従って、退職給与引当金の債務の額を超えて引き当てられた退職給与引当預金等は、これに該当しない。)

負債相当額(将来の支出が明瞭なものに限る。また、引当預金を有しているものは除く。)

(4)補助金等の受入状況

(単位:千円未満四捨五入)

| 区 分 | 交 付 者 | 12年度 | 対全体収入比 (左の額/千) | 13年度 | 対全体収入比 (左の額/千) | 14年度 | 対全体収入比 (左の額/千) |
|------------|----------|------|-------------------|------|-------------------|-------|-------------------|
| | 国・地方公共団体 | | | | | | |
| 補助金収入 1 | 国 | | | | | | |
| | 県 | | | | | 8,800 | 2.0% |
| | その他 | | | | | | |
| | 小計 | 0 | | 0 | | 8,800 | 2.0% |
| 受託料収入 2 | 国 | | | | | | |
| | 県 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 小計 | 0 | | 0 | | 0 | |
| そ の 他 3 | 国 | | | | | | |
| | 県 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 小計 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 合 計 | | 0 | | 0 | | 8,800 | 2.0% |

1～3の具体的内容

学生寮の屋上等の改修工事を平成14年度から3カ年計画により棟毎に順次改修するために要する改修費用の一部補助金。

2 財務分析

(1) 損益計算

収支計算書等を以下のように組み替えて、フロー式(公益法人会計基準第5の2の但し書き)の正味財産増減計算書を作り、損益の状況を発生原因別に明らかにする。

(単位:千円未満四捨五入)

| フロー式正味財産増減計算書(損益計算書) | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|----------------------|-------|---------|---------|---------|
| 増加原因の部 | | 計算式 | | |
| 基本財産運用収入 | ア | 3 | 4 | 1 |
| 入会金収入 | イ | 0 | 0 | 0 |
| 会費収入 | ウ | 0 | 0 | 0 |
| 事業収入 | エ | 125,585 | 149,083 | 171,007 |
| 補助金等収入 | オ | 0 | 0 | 8,800 |
| 負担金収入 | カ | 0 | 0 | 0 |
| 受託収入 | キ | 0 | 0 | 0 |
| 寄付金収入 | ク | 0 | 100 | 200 |
| 運用財産受取利息 | ケ | 7,491 | 4,068 | 1,317 |
| 雑収入 | コ | 580 | 739 | 587 |
| 基本財産収入 | サ | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産売却益(損) | シ - ム | 0 | 0 | 0 |
| 退職給与引当金取崩額 | マ | 0 | 1,351 | 38 |
| その他の引当金取崩額 | ミ | 222,294 | 237,284 | 257,915 |
| 小計 | リ | 355,953 | 392,629 | 439,865 |
| 減少原因の部 | | 計算式 | | |
| 事業費 | ト | 247,298 | 264,862 | 294,492 |
| 管理費 | ナ | 246 | 192 | 182 |
| 固定資産減価償却費 | メ | 4,815 | 4,334 | 4,394 |
| 退職給与引当金繰入額 | モ | 515 | 1,143 | 392 |
| その他の引当金繰入額 | ラ | 109,139 | 120,900 | 136,166 |
| 小計 | ル | 362,013 | 391,431 | 435,626 |
| 当期正味財産増減額(当期利益・損失額) | レ | 6,060 | 1,198 | 4,239 |

(2) 独立採算過不足額計算

損益計算の結果を受けて、法人運営費用に対する独立採算の過不足額を計算する。

(単位:千円未満四捨五入)

| 独立採算過不足額計算書 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|
| 計算式 | | | | |
| 当期正味財産増減額(当期利益・損失額) | レ | 6,060 | 1,198 | 4,239 |
| 補助金等収入 | オ | 0 | 0 | 8,800 |
| 独立採算過不足額() | レ - オ | 6,060 | 1,198 | 4,561 |

次の計算式で、独立採算度を計算する。

(単位:%小数点1桁)

| 独立採算度の計算 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|--|--|------|------|------|
| 独立採算過不足割合 = 〇 独立採算過不足額 / ト 事業費 + ナ 管理費 | | 2.4 | 0.5 | 1.5 |

(3)その他の財務分析比率表

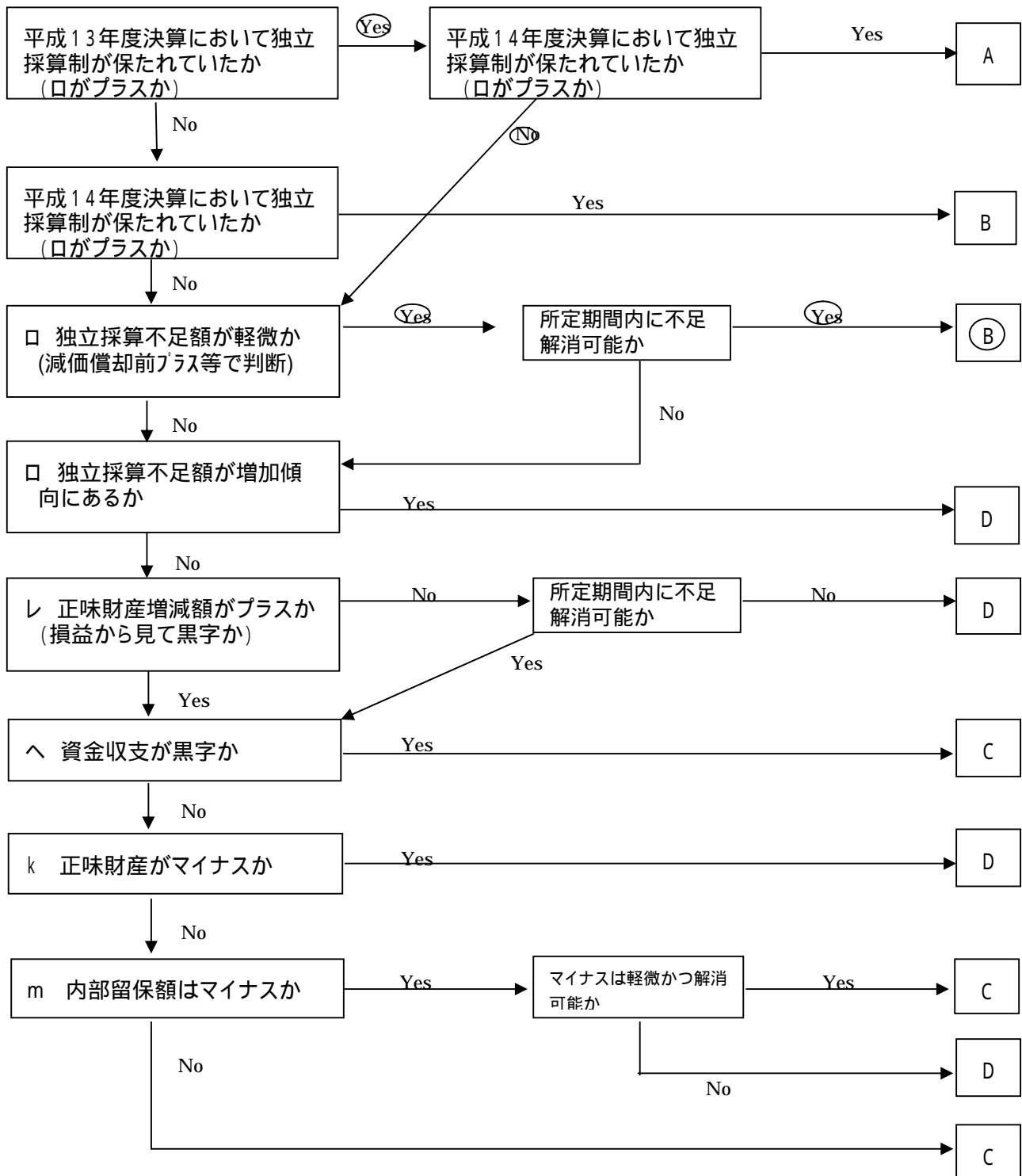
(単位: %・小数点1桁)

| 比率の名称 | 算式 | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 傾 向 (14年度/13年度) |
|-------------|--------------------------|----------|----------|---------|-----------------------|
| 健全性 | | | | | |
| 内部留保率 | m 内部留保金額 / ㊦ 当期収入合計 | 2.5 | 2.1 | 4.1 | |
| 管理費比率 | ㊦ 管理費 / ㊦ 当期支出合計 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | |
| 人件費比率 | ㊦ 管理費(うち人件費) / ㊦ 管理費 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 採算性 | | | | | |
| 正味財産対収支差額比率 | ㊦ 当期収支差額 / k 正味財産 | 0.1 | 0.3 | 0.4 | |
| 総資産対収支差額比率 | ㊦ 当期収支差額 / e 資産合計 | 0.1 | 0.3 | 0.4 | |
| 総収入対収支差額比率 | ㊦ 当期収支差額 / ㊦ 当期収入合計 | 0.4 | 1.4 | 2.0 | |
| 総資産回転率 | ㊦ 当期収入合計 / e 資産合計 (単位:回) | 0.2 | 0.2 | 0.2 | |
| 1人当たり年間収入 | ㊦ 当期収入合計 / 総職員 (単位:千円) | 50,850 | 56,090 | 62,838 | |
| 安全性 | | | | | |
| 流動比率 | a 流動資産 / f 流動負債 | 22,834.1 | 18,577.3 | 2,144.4 | |
| 総資産対正味財産比率 | k 正味財産 / e 資産合計 | 99.5 | 99.5 | 98.3 | |
| 借入金依存度 | 借入金等残高 / e 資産合計 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 上昇数 | 6 | 評価 | ++ |
| | | 横ばい数 | 4 | | |
| | | 下降数 | 1 | | |

3 財務評価

(1) 評価のフローチャート(下記の該当するYes、No及びA～Dを丸で囲むこと)

< 独立採算過不足額計算書他からみて >



A: 良好
 B: 概ね良好
 C: 改善を要する
 D: 大いに改善を要する

(2) 財務分析に関するコメント

公社等の業種や性格、公共性、また設備投資の多寡、経営の責めに帰すべき理由など、特記事項がある場合には、その内容(県の施策等と実施事業の関連性、類似事業を行う法人等の状況等の考慮)を具体的に記入する。

| 公社等コメント | 所管課コメント |
|----------------|----------------|
| | |

公社等経営評価総括表

公社等の名称：財団法人 青森県育英奨学会

1 マネジメント評価

| 項目 | 公社等自己評価 | | | | | 所管課評価 | | | | |
|------------------------------|---------|-------|--------|----------|--------|-------|-------|--------|----------|--------|
| | はいの数 | いいえの数 | はいの割合 | 今年度の評価 | 前年度の評価 | はいの数 | いいえの数 | はいの割合 | 今年度の評価 | 前年度の評価 |
| (1) 経営理念・基本目標、中長期経営計画、提言への対応 | 14 | 1 | 93.3% | A | A | 14 | 1 | 93.3% | A | A |
| (2) 事業内容等 | 10 | 0 | 100.0% | A | A | 10 | 0 | 100.0% | A | A |
| (3) 組織体制等 | 12 | 3 | 80.0% | A | B | 12 | 3 | 80.0% | A | B |
| (4) 事業遂行の効率性等 | 13 | 0 | 100.0% | A | A | 13 | 0 | 100.0% | A | A |
| マネジメント評価総合 | | | | A | A | | | | A | A |

2 財務評価

| 項目 | 公社等自己評価 | |
|------------------|-----------|-----|
| | 今年度 | 前年度 |
| (1) フローチャートによる評価 | B | A |
| (2) 財務分析比率による傾向 | ++ | + |

3 総合

| (1) 公社等自己評価 | | | | | (2) 所管課評価 | |
|-------------|-----|----------|-----------|-----|-----------|-----|
| マネジメント評価 | | 財務評価 | | | マネジメント評価 | |
| 今年度 | 前年度 | フローチャート | 財務分析比率 | 前年度 | 今年度 | 前年度 |
| A | A | B | ++ | A+ | A | A |

【評価基準】 「A」……良好 「B」……概ね良好 「C」……改善を要する 「D」……大いに改善を要する

4 公社等経営評価委員会のコメント

本法人と所管課のマネジメント評価及び財務評価は、概ね妥当であると判断する。

学生寮管理運営事業については、現時点では引き続き入寮人員の確保・経費節減等に努めてほしい。しかしながら将来的には、多様化する大学進学環境の変化の中で、地域が東京都内近郊に限定されるものであること、現在では、民間の住宅供給レベルが十分であること等を踏まえて、さらに他県の動向もかんがみ、青森県として戦略的かつ長期的な視点から、当事業が公社の本来の理念・基本目標のために今後とも必要不可欠な事業かどうか、県の関与廃止も含めて問い直す必要があると思われる。

奨学金貸付事業については、奨学金の回収状況は良好であり、引き続き適正な回収に努めてほしい。